

# 尾道工場CSRレポート

**生産品目:** 建設・鉱山・産業車両用タイヤ  
**敷地面積:** 193,000m<sup>2</sup>  
**従業員数:** 339人(2010年3月末現在)  
**所在地:** 広島県尾道市東尾道20番地  
 TEL: 0848(46)4580

**相談・苦情などの受付窓口**  
 工場管理課 TEL: 0848-46-4580  
 FAX: 0848-46-4579



## 工場長挨拶



中野 茂

尾道工場は大型建設／鉱山車両用タイヤの専門工場です。これまでも、地球環境に優しく、地域に愛される企業となるため、生産資源の有効活用を推進し、産業廃棄物の低減と再利用化に取り組んできましたが、昨年念願の再資源化率100%を達成する事ができました。これからも創立100周年を迎える2017年を目標に「トップレベルの環境貢献企業」の達成に向けて、産廃物の発生の更なる低減、そしてエネルギーの無駄使いの撲滅を推進

し、地球環境に優しい企業となるよう日夜改善していきます。一方、地域への貢献やコミュニケーション活動としては、工場敷地内の恐竜公園の一般開放、児童／生徒の工場見学受入れ、地域の文化活動やイベントへの積極的参加、千年の杜によるポジティブな環境保護活動など、さまざまな活動に取り組んでいます。



ORタイヤ

## 事業内容

世界でも数少ないOR(Off the Road)タイヤの専門工場が横浜ゴムの尾道工場です。建設車両用タイヤの大型化に対応しながら、高性能ORタイヤを世界中のマーケットに供給し続け、1997年には、ORラジアルタイヤの生産にも着手しました。ここで生産されるタイヤの多くは海外に輸出され、世界各国で活躍しています。

タイヤの製造工程は、おのおの特性の異なる多種のゴムを準備する「混合工程」、ゴム、ワイヤー、糸を組み合わせる「成形工程」、組み上がった各パーツをグリーンタイヤ(生タイヤ)に組み上げる「成形工程」、組み上がったグリーン・タイヤ(生タイヤ)を金型に入れて加熱・加圧しゴムの弾力性を確保し、タイヤの表面模様(トレッドパターン)をつける「加硫工程」、そして最終的にできあがったタイヤの品質を厳しくチェックする「検査工程」という5つの工程で成り立っています。

作る「材料加工工程」、できあがった各パーツをグリーンタイヤ(生タイヤ)に組み上げる「成形工程」、組み上がったグリーン・タイヤ(生タイヤ)を金型に入れて加熱・加圧しゴムの弾力性を確保し、タイヤの表面模様(トレッドパターン)をつける「加硫工程」、そして最終的にできあがったタイヤの品質を厳しくチェックする「検査工程」という5つの工程で成り立っています。

## 環境への取り組み

### 2010年度環境方針

横浜ゴム株式会社は「トップレベルの環境貢献企業」を目指します。

- (1) 環境貢献企業として尾道工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組めます。
- (2) 地域社会から信頼される工場になるために、環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進めます。
- (3) 全従業員が本方針を理解し行動する様、教育と啓蒙を行い、全員の知恵と改善力を結集し、環境改善のできる場所から確実に実施していきます。
- (4) 環境負荷低減のため、省エネルギー、産業廃棄物の削減及び100%再資源化を維持、継続します。
- (5) 完全ゼロエミッションを維持、継続します。
- (6) 環境方針を具現化するために、環境目的・目標を設定し、計画的に実行していきます。環境目的・目標及び計画は、年1回見直しを行ないます。
- (7) 関連する法規制及び協定等を順守し、地域社会との融和を目指した環境保全に取り組めます。
- (8) 継続した千年の杜造りを推進し、地域の防災拠点と常緑の杜を造り、瀬戸内海の環境保護に貢献していきます。
- (9) 本方針は、一般の人からの要求に応じて公開します。

### PRTR対象物質

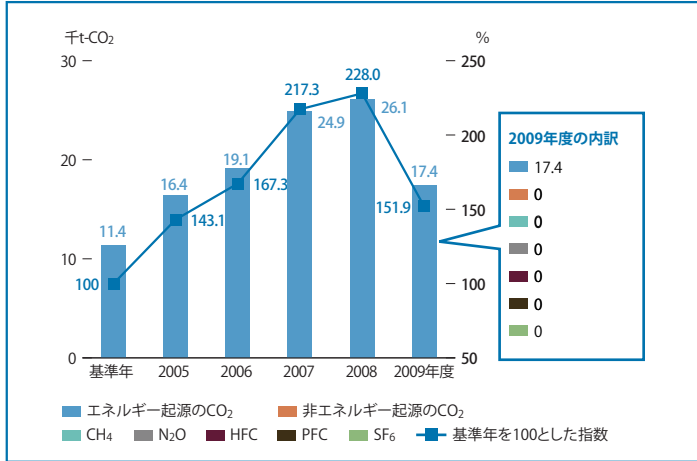
政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 VIII-5 (単位: t/年)			
					有害性 ランク (人)	年間換算 排出量 (人)	有害性 ランク (生態)	年間換算 排出量 (生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	28.807	0.000	0.165				
198	ヘキサメチレントラミン	3.348	0.000	0.084				
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	45.521	0.000	0.147				
総合計		77.676	0.000	0.396				

1: 取扱量は1トン以上を記載(ダイオキシン類を除く) ただし、ベンゼン等の特定第1種指定化学物質は0.5トン以上を記載  
 2: 排出量=大気+公共用水域+土壌  
 3: 移動量=廃棄物+公共下水道

## 環境への取り組み

### ■温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

2009年度は、生産量の減少により、GHG排出量は前年比低下しました。

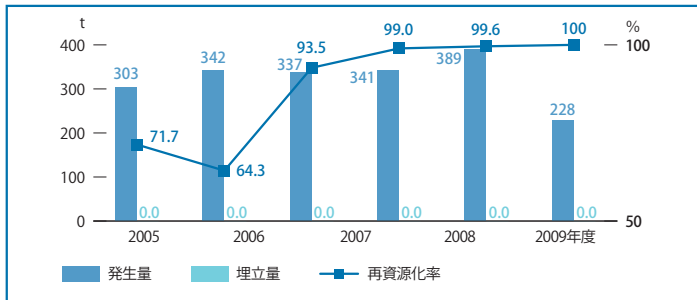


※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF<sub>6</sub>は1995年としています。  
 ※温室効果ガス(GHG)の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。  
 なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境省公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。  
 また、温対法改正(2010年3月31日)に伴い、燃料種別の発熱量と排出係数を見直しました。  
 ※尾道工場は、2009年度より電力排出係数は実排出係数へ変更した。

### ■廃棄物データ

2004年度より完全ゼロエミッションを継続しています。

2009年度には再資源化100%を達成しました。



### ■大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2009年度実績		
				平均値	最大値	最小値
尾道工場 1号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m <sup>3</sup> /h)	5.0	0.34	0.17	0.20	0.15
	窒素酸化物濃度(ppm)	200	123	110	110	100
	ばいじん濃度(g/m <sup>3</sup> N)	0.10	0.011	0.002	0.002	0.001
尾道工場 2号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m <sup>3</sup> /h)	2.5	0.340	0.078	0.081	0.078
	窒素酸化物濃度(ppm)	145	123	11	12	11
	ばいじん濃度(g/m <sup>3</sup> N)	0.10	0.011	0.002	0.002	0.002

※大気汚染防止法、広島県・尾道市公害防止協定に準拠

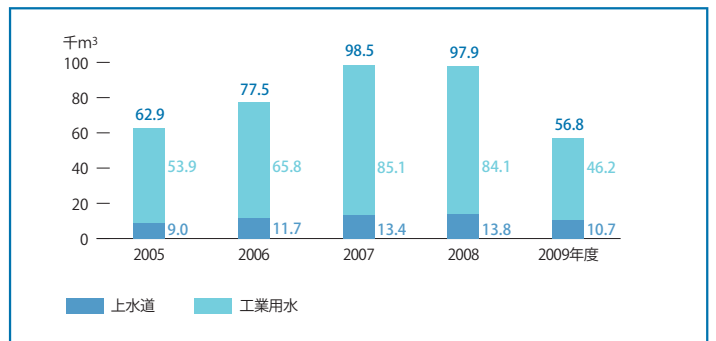
焼却炉施設廃止状況：2002年9月廃止

### ■水質関係測定データ(主要排水)

排水口	項目	規制値	自主管理値	2009年度実績		
				平均値	最大値	最小値
尾道工場	P H	5.0~9.0	6.0~8.7	7.6	8.6	6.8
	BOD濃度(mg/l)	600	—	2.6	—	—
	SS濃度(mg/l)	600	—	12	—	—
	油分濃度(mg/l)	30	—	ND	—	—

※法規制対象外(自主管理測定)、規制値は尾道市下水道条例に準拠、2009年度も規定違反なし

### ■水使用量



## 安全への取り組み

### 労働安全衛生

労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入し、徹底したリスクアセスメントの実施による危険性、有害性の排除を図っています。

- <実績> KYTトレーナー教育の受講(25人)  
体感訓練の実施(1回/月)
- <対策> OSHMS活動の開始  
リスクアセスメントによるリスク軽減  
KYT活動による危険を感じる感性ある人づくり

### 地震・火災発生時の対応訓練、および教育

尾道消防署員の指導により、工場全従業員および構内協力業者を対象に地震・火災の発生を想定した緊急事態発生時の避難訓練を実施しています。また、従業員を対象にした消火訓練も実施しています。普通救命講習については45人が受講しました。



工場全体での防災訓練

防火訓練



救急救命講習

### これまでに寄せられた主な意見や苦情と対応策

過去5年間以上苦情はありません。

尾道市主催の「環境まつりin尾道」のイベントに参画して、横浜ゴムの環境への取り組みをパネルで紹介しました。ブースに入場されたお客さまには、千年の杜用に育てた低木の苗木を配布して当工場の千年の杜づくりの取り組みについて、理解を得ました。



第4回環境祭り参画

### 教育貢献

エネルギー教育実践校の要望により小学生15人(原田小学校3・4年生)の工場見学を受け入れて、工場の省エネ、環境への取り組みを紹介しました。



原田小学生への環境教育

### 交通指導

地域の交通安全の推進を図るため、東尾道交差点において、通学、通勤者を対象に全国交通安全週間の期間に(3回/年)交通安全の指導を実施しています。



東尾道交差点での交通指導



2009年11月14日タイヤ生産拠点の尾道工場(広島県尾道市)で「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトの第2期植樹会を開催しました。第2期植樹会は2回に分けて行われ、2009年6月20日(土)に1回目を実施し、従業員とその家族170人が参加、2,487本を植樹。2回目となる今回は160人で3,840本を植樹しました。同プロジェクトでは「自前の杜づくり」のコンセプトに則り、第2期から従業員が中心となって育てた自前苗木を活用しており、約7割の自前苗木を植えました。



#### 参加従業員の声：真鍋 充

植樹に参加して久々に土に触れ、懐かしい気持ちと、みんなで一つのことを成し遂げる達成感を味わうことができました。この「いのちの杜」づくりに参加して、地球の未来の環境を自分たちで築いていきましょう！